

嚶鳴通信

山形県立山形西高等学校

創立記念特集子

令和元年六月二十五日（火）

山形西高 創立121周年！

6月25日、本校創立121年を祝う記念式典が行われます。明治31年(1898年)6月25日に、本学の前身である「山形市高等女学校」が開校しました。当時の校舎は、現在の山形地方裁判所(山形市役所隣り)の敷地にありました。入学志望者は予想外に多く、計105名が入学しましたが、年齢はまちまちで20歳を過ぎた人もいたとのこと。以来121年間、明治・大正・昭和と時代が移りかわる中で学制も変化し、「山形市高等女学校」(「嚶鳴会」発足)→「山形市立高等女学校」→「山形県高等女学校」→「山形県立山形高等女学校」→「山形県立山形第一高等女学校」→「山形県立山形第四高等女学校」→「山形県立山形南高等学校・西校舎」と校名が変化しました。「山形県立山形西高等学校」という現在の校名になったのは、昭和27年(1952年)のことです。創立121周年を迎える本年は、令和最初の年であり、「山形県立山形西高等学校」も昭和・平成と時を経て、令和の時代へ繋がれていきます。



第一回卒業生



高等女学校生徒服装

「嚶鳴」という言葉が使われるようになったのは、「山形市立高等女学校」創立の1年後で、明治36年(1903年)に「嚶鳴会」が発足しました。「嚶鳴会」は、在校生と卒業生、そして教職員の親睦と修養を目的とした組織として誕生しています。

大先輩である石坂(松浦)照子博士に思いを馳せて…

本校を昭和19年に卒業し、今月4日に92歳で他界した石坂照子さん(山形市蔵王半郷)は、Wikipedia 英語版・日本語版にもその功績が説明されている世界的に著名な免疫学博士です。



石坂照子博士が山形第一高等女学校に在籍していたのは、日本がハワイの真珠湾を攻撃し、アメリカ・イギリスに宣戦布告して太平洋戦争に突入した激動の時代。戦争に勝つために心身鍛錬の強化が叫ばれ、長期休業は「業ヲ休ム」概念を捨てて「心身鍛錬」の期間として本校でも海洋訓練や行軍、競歩大会、実弾射撃など多くの行事が行われていました。そんな中、昭和19年2月に当時山形駅前にあった校舎は物理室より出火し、教室校舎・行動・体操場が焼失するという惨事にみまわれます。翌朝校庭に集合した全校生徒は、一夜にして無残な姿となった校舎を眺め、寒さ厳しい中、一同涙にむせびながら焼け跡の片付けを始めました。火災後は、半焼の体育館を応急修理した教室で学習を続けましたが、すき間風が強くて凍てつくような寒い日は手ががじかんでノートもとることができなかつたと『山形西高等学校百年史』にあります。(pp.258-259)

同年3月の卒業式で卒業生代表として答辞を述べたのが石坂(松浦)照子博士でした。『同百年史』(pp.260-261)の記述からは、博士の母校を思う心が伝わってきます。

<前略>

この長い伝統と光栄とに輝く、何物にも代え難い思い出の校舎も、一瞬にして廃墟に帰りました。あの母校の災禍、あまりにも悲惨な運命の戯れ、親鳥の愛の翼を失った雛鳥のように、暫しは呆然と涙に咽んだ私達ではございましたが、母校復興の誓いも堅く全校生徒一丸となって、一草もなき廃墟の中から、力強く復興の第一歩を踏み出したのでございます。懐かしの学びの舎を失ったこの悲哀の情、しかし私達は、徒らに空しい形骸に執着し、何時迄も弱い感傷にのみ捉われて居りましょうか。仮令栄ある校舎は失っても第一高女の長い歴史と栄誉とは私達の頭上に燦として輝き、心の中に脈々として生きて居るのでございます。私たち卒業生は、今後如何なる職場に挺身し、如何なる道を進みましても、母校の伝統と栄光とを矜持して社会に立ち、母校復興の日の一日も早からん事を祈りつゝ、皇運扶翼の誠を捧げ抜く覚悟でございます。御懐かしき諸先生、本当に名残り惜しうございます。荆棘深き母校復興の前途諸先生方には、雨につけ風につけ、呉々もご健康にご留意くださいませ。まことに拙い言葉ではございますが、卒業生一同に代わりまして、謹んで答辞を申し上げます。

昭和十九年三月十六日

山形県立山形第一高等女学校
第四十一期卒業生総代

松浦照子

松浦照子は東京女子医学専門学校に進み、卒業後夫石坂公成とアメリカに渡りジョンズ・ホプキンス大医学部教授などを歴任、夫とともに免疫グロブリンEを発見し世界的評価を得た。その間母校山形西高をしばしばおとずれ、後輩の生徒を激励し大きな感銘を与えている。

職員室で石坂照子博士と夫である公成博士についての話題がでるときはいつも、特に生物の先生たちがその業績を絶賛し、「教科書に載っているような本当に著名な科学者が現在山形に住んでいるのはすごいことだ！」と語っているのを耳にしてきました。ノーベル生理学・医学賞受賞者の予想リストに名前が挙がる程の業績で、多くの現代人を悩ませている花粉症や食物アレルギーなど「アレルギー」が生じるメカニズムを1960年代に解き明かし、治療の道を開いたというものです。

また、国語科・なぎなた部顧問の伊藤和恵先生は、石坂照子博士が西高を訪問した際に直接そのご講演を聴いた経験があります。中でも、「真心込めて命がけ、そこから先はくそくらえ！」という言葉がとても印象に残っているそうです。現在、西高生がキャッチフレーズにしている「全力主義」に繋がる精神ではないでしょうか。

石坂公成博士は昨年7月に、照子博士は今年4日、共に92歳で他界されましたが、私たちと同じ嚶鳴の学び舎を原点に、科学者として世界的な発見をし、女性科学者の道を切り開いた人物がいるということは驚きであり、もっと認知されるべきなのかも知れません。今月から本校昇降口の正面ディスプレイに石坂照子博士の業績を称える追悼コーナーが整えられました。まだ気づいていなかった人はぜひのぞいてみてください。博士が西高生たちの様子を見ながら、激励する声が聞こえてきそうです。



創立121周年記念式典

6月25日(火)Happy Birthday 西高



@やまぎんホール

8:40~	9:00	生徒着席・出欠確認
9:00~	9:25	表彰式
9:45~	10:40	創立記念式典
11:00~	11:20	合唱コンクール開会行事
11:30~	14:45	演奏
15:45~	16:30	表彰式・閉会行事

校内合唱コンクールは、昭和33年(1966年)に始まった西高3大行事の1つです。



嚶鳴100年・120年 そして未来へ



合唱コンクールテーマソング「私とあなたとみんなの歌」誕生(詩・阿部風香 作曲・小林康浩)(写真は当時の優勝クラスの演奏)